

指導資料

鹿児島県総合教育センター

総合的な学習の時間 第8号

- 高・盲・聾・養護学校対象 -

平成13年11月発行

総合的な学習の時間の具体的な展開(2) - 高等学校における進路に関する活動を取り入れた指導計画 -

平成15年度から新学習指導要領が学年進行で順次実施される。新たに設けられた総合的な学習の時間については、この時間の趣旨やねらいを十分踏まえ、高等学校の段階で求められる資質や能力、態度等を身に付けるための有意義な時間となるよう、学習活動を計画し展開することが必要である。

各学校では、生徒たちが将来、職業人・社会人として生きていけるよう、様々な学習活動が展開されている。総合的な学習の時間が、その趣旨やねらいを十分に踏まえた学習活動となるよう、現在行われている進路に関する活動を取り入れた指導計画の作成について述べる。

1 基本的な考え方

総合的な学習の時間においては、小学校、中学校、高等学校を通して「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」が重視されている。このようなねらいを踏まえ、高等学校学習指導要領では、地域や学校の特色、生徒の特性等に

応じて行う学習活動の例として、次の3点が示されている。

- ア 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動
- イ 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動
- ウ 自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動

学習活動を行うに当たっては、生徒の発達段階や小学校、中学校での総合的な学習の時間の学習内容を踏まえることが大切である。

高等学校の段階は、進路への意識を高め、将来の自己の在り方生き方を選択する能力や態度を育成し、自立を図る段階である。特に、自己の学習や進路を自ら選択する能力、積極的に学校生活や学業に取り組む意欲や態度を育成することが強く求められる。したがって、「どのように生きるか」を考えることが大切なことであり、そのためにも、総合的な学習の時間の意義は極めて大きく、有意義な時間となるよう計画し展開することが望まれる。

2 指導計画作成の視点

指導計画の作成に当たっては、この時間の趣旨やねらいを踏まえ、地域や学校、生徒の実態等に応じ、各学校において適切な指導計画を作成することが求められている。

指導計画を作成する際の視点として、例えば次のようなものが考えられる。

視点 1

地域や学校の特色を生かし、課題を追究し解決していく学習活動を展開する。

課題意識をもち意欲的に取り組むために、地域での調査・研究や体験活動、地域の人による講演などを通して、生徒自らテーマを設定し、その解決を図る活動を展開する。

視点 2

生徒の興味・関心、進路等に応じて、自己の在り方生き方を考える学習活動を展開する。

統一的な学習課題を特に設けず、個人又はグループで自由にテーマを設定する。追究活動として観察・実験・実習、調査・研究などを行い、互いに討論し合い、自己の考えを深化させる活動を展開する。

視点 3

特別活動の中で行われている活動などを、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの課題と関連させて実施する。

生徒が主体的に設定したテーマについて事前に研究を行い、特別活動の中に調査・研究などの体験学習を設定し、その解決を図る活動を展開する。

視点 4

各教科・科目で共通に取り組める課題を設定することで、教科の枠を超えた学習活動を展開する。

教科・科目の学習等の関連を図りながら課題を設定し、各教科の学習の成果を生かすことで、よりよい解決を図る活動を展開する。

視点 5

大学や短大、専門学校、企業、公共機関等の見学や講話などを通して、自己の在り方生き方を考えさせ、職業観が高まるようにする。

大学や職場等で講義を受けたりすることで、諸施設を資料収集のための場として利用するだけでなく、社会で活躍している人の生き方に触れ、自己の在り方生き方を考える機会とする活動を展開する。

視点 6

学校設定教科・科目の中で行った学習活動を更に発展させて実施する。

単に知識を習得する学習ではなく、それぞれの教科の学習を深化させる時間として、人文、自然、芸術、スポーツなど生徒の興味・関心に応じたテーマを設定した活動を展開する。

各学校においては、この時間の活動を通して、各教科・科目等で得た知識や技能等が実生活において生かされ、総合的に働くように計画し展開することが大切である。

3 各学年のねらいと配慮事項

(1) 各学年のねらい

総合的な学習の時間を進めるに当たっては、どのような学習内容でどのような力を育成するのか、3年間を見通した計画が必要である。そのためには、次のような展望を持つことが考えられる。

第一学年	- ねらい 「自己を再発見する」時間とし、自己を知り、自分らしく生きるための基礎を培う。 - 学習内容・方法 講話や職業体験等を通して、働く目的や意義を考え、自分の適性や興味・関心に対する理解を深め、自己の将来の生き方や進路についての自覚を高めるための学習を行う。
第二学年	- ねらい 「自己の確立を図る」時間とし、学ぶ楽しさを発見するとともに、課題を追究する能力を培う。 - 学習内容・方法 観察・実験・実習、調査・研究等を通して、主体的に学びながら問題解決を図り、生涯にわたって学習に取り組む意欲を養うための学習を行う。
第三学年	- ねらい 「在り方生き方を自覚する」時間とし、自らの力で生き方を考え、決定する力を培う。 - 学習内容・方法 自己の興味・関心や将来の進路希望などを考え、これからの社会でどのような生き方をしていくのか、広い視野に立った進路選択ができる能力を養うための学習を行う。

系統的な指導計画を策定する際、小学校、中学校との連携や発展性をもたせたり、学習活動の広がりや深まりを明確にしたりするなど、学年ごとの学習のねらいを設定することが必要である。また、各教科・科目の指導計画とも関連付け、学校全体で十分検討することが大切である。

(2) 配慮事項

この時間の展開に当たっては、学習指導要領総則に示されている配慮事項のほか、次のようなことが考えられる。

ア オリエンテーションの充実

学習の動機付けとなるよう、この時間がどのような時間であるか、また、学習活動の特色などについて説明を行う。そ

の際、上級生による発表を取り入れたり適切な視聴覚教材を利用したりしながら、学習のイメージがわくようにする。

イ 講演会の実施

いろいろな人による講義や講話を設定することで、それぞれの分野でどのような仕事を行い、自己実現を図ろうと努力をしているのか、人の生き方の多様性に気付くようにする。

ウ 地域での活動

調査・研究を行う際の地域との交流は、共生の観念や自己の在り方生き方、コミュニケーション能力を培うとともに、生徒一人一人が前向きに自己実現を考える機会となるので、積極的に取り入れる。

エ 発表の工夫

生徒は発表までの過程を通して、プレゼンテーション能力を身に付けていく。中間発表会を設定したり、協力いただいた方を招いたりすることが考えられる。

4 指導計画の構想例

これまでも、「生徒一人一人の将来の進路実現を図ること」を目指し、進路にかかわる指導が行われてきた。しかし、ホームルーム活動における進路指導は、あくまでも特別活動の目標を達成するためのものである。

そこで、生徒が自発的に進路意識を高め、将来の在り方生き方を考える学習活動として、講話や職業体験等を通して働く目的や意義を考え、一学期間をかけて学習テーマを設定するような第1学年の進路に関する指導計画を示す。

第1学年 年間指導計画例

(全 35 時間)

過程	月	活 動 内 容	時数	主 な 学 習 活 動
課題設定	4	1 オリエンテーション 昨年度の取組の紹介 自分の適性や性格	1 1	。この時間のねらいや学習内容についての説明を聞き、この時間の意義を理解する。 。進路希望や諸検査の結果を利用しながら、豊かな高校生活を過ごすための一助とする。
	5	2 進路について考える 職業と人の生き方	2	。地域の人による講話を聞き、人の生き方や自己の将来に目を向ける。
	6	日本の産業や職業	3	。グループによる調査・研究を行い、日本の産業や職業について理解を深める。
	7	上級学校の種類と内容 自己理解 テーマ設定	4 1 2	。グループによる調査・研究を行い、上級学校の種類と特色について理解を深める。 。卒業生の体験談を聞き、自己の将来に目を向け、よりよい生き方を考える機会とする。 。自分の興味・関心にしがたって選択したテーマごとにグループを編成し、追究のための計画を作成する。
			計 14	
課題追究	9	追究活動	2	。テーマについて調査・研究を行う。
	10		4	
	11		4	
			計 10	
例えば、学年のテーマを「自己発見と進路」と設定すると、「職業と資格との関係」「資格取得の方法」などの研究テーマが考えられる。 学習形態として、課題追究の過程では自分の興味・関心のあるテーマでグループを編成し追究していくグループ学習、発展の過程では個人研究などが考えられる。				
まとめ	12	まとめ	3	。調査・研究した要旨を各学級で発表する。 。OHPなどの視聴覚機器も利用する。
	1	発表	4	。活動について、個人やグループでまとめたことを発表したり発表について話し合ったりすることで情報の共有化と学習の深化を図る。 。発表についての自己評価や相互評価をする。
			計 7	
発展	2	3 自分らしい生き方 進路計画・学習計画設計	2	。自分の興味・関心のある分野は、何を学び、どのように取り組めばよいかを考え、2・3年時の学習プランを立てる。
	3	私のライフプラン	2	。一年間の取組を終えて、自己の生き方や進路について整理しレポートにまとめる。 。発表や討論を通して、どのような人生を送りたいかを語り合うことで、これからの自分の生き方や進路に生かす。
			計 4	

各教科・科目及び特別活動との関連を考慮する必要がある。

た指導計画を作成していく場合、既存の学習活動を単に移し替えるだけにならないよう留意することが大切である。特に、この時間と特別活動は相互に関連しており、それぞれの活動を深めていく関係にある。結果的に、よく似た内容を行うにしても、その趣旨やねらい・目標等の違いに留意し、明確に区別をす

[引用・参考文献]

文部省『高等学校学習指導要領解説 総則編』平成 11 年 12 月
文部省『産業社会と人間 指導資料』平成 11 年 6 月 ぎょうせい
清水希益編著『高等学校『総合的な学習の時間』創意ある実践』2001 年 文教書院
鹿児島県総合教育センター「研究紀要第 93 号」平成 12 年 3 月

(教育経営研修室)

